

高いリターンはねらいたい、
リスクも気になる…
そんな方に知ってほしい

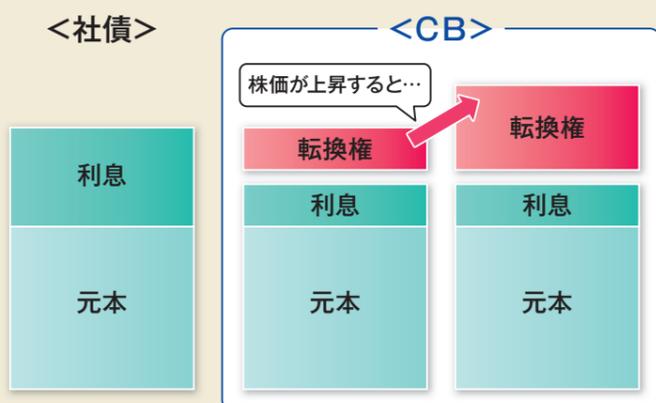
「CB（転換社債）」のキホン

キホン 1

CB＝社債＋株式の値上がり期待

- CB (Convertible Bond: **転換社債**)は、株式に**転換**できる権利(転換権)がついた**社債**です。
- 「攻め」の株式と「守り」の債券の両方の性格をあわせもっています。

CBの仕組みのイメージ



株式と債券の性格をあわせもつ



株式的な性格

- あらかじめ定められた価格で株式に転換できる
- 対象となる株式の動きに連動する傾向がある

債券的な性格

- 定期的に利息を受け取れる
- 満期になると額面金額が戻ってくる

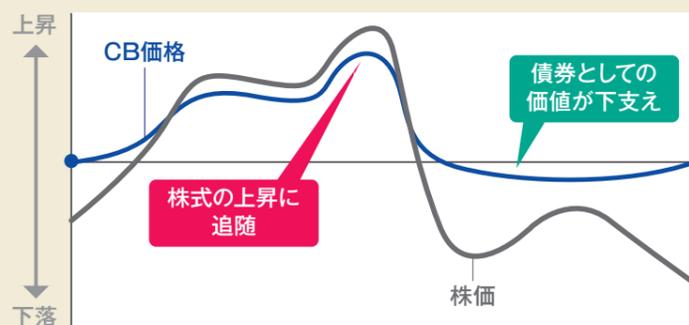
上記はCBの一般的な性質を示したものであり、すべてのCBにあてはまるとは限りません。利率が0%という発行条件のCBもあります。また、発行会社の倒産などにより、利息や額面での償還金を受け取ることが出来ない場合があります。上記のイラストはイメージです。

キホン 2

一般的に株式上昇時には値上がり、 株式下落時の値下がりに限られる

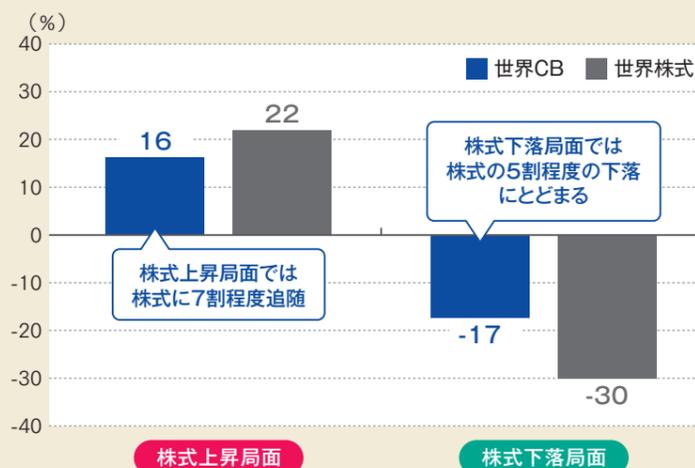
- 転換対象となる株式の価格(株価)が上昇すると、CB価格の値上がりが期待できます。
- 一方、株式が下落しても、CBの値下がりには限られる傾向があります。

CBの値動きのイメージ



上記はCBの値動きのイメージをご理解いただくために作成したものであり、実際の値動きとは異なります。

局面別平均リターン(米ドルベース、年率)



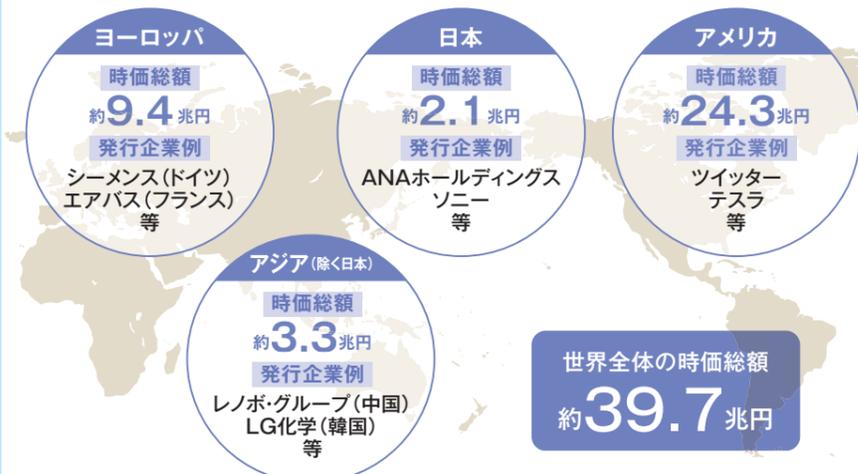
出所)FactSet等のデータをもとにニッセイアセットマネジメント作成
データ期間:1999年4月末~2019年4月末(月次) 世界CB:トムソン・ロイター・グローバルCBインデックス、世界株式:MSCIワールド・インデックス(配当込み) 株式上昇局面と株式下落局面は、世界CBと世界株式のパフォーマンスの傾向をご理解いただくために、世界株式の騰落率等をもとにニッセイアセットマネジメントが分類したものです。局面別平均リターンは、株式上昇局面と株式下落局面における月次リターンを平均し、年率換算したものです。

キホン 3

世界の有名企業も発行

- 企業にとっては支払金利を抑えられるというメリットがあり、多くの有名企業も発行しています。
- 世界のCB市場の規模は約40兆円で、Jリートの約3倍の規模となっています。

CBの市場規模と発行企業



出所)ブルームバーグ・バークレイズ・インデックス等のデータをもとにニッセイアセットマネジメント作成
時価総額はブルームバーグ・バークレイズCBインデックスの数値、2019年4月末時点。1米ドル=109.35円で換算。上記は特定の銘柄を推奨するものではありません。

ここがポイント!

- CB(転換社債)とは、株式に転換できる権利のついた社債のこと。
- 株式が上昇すると値上がりが期待でき、株式が下落しても値下がりには限られる傾向。
- 「高いリターンはねらいたい、リスクも気になる…」そんなわがままなあなたにご活用いただきたいのがCBです。

「攻め」と「守り」をかねそなえたCBを、
あなたの資産運用に加えてみませんか?



お持ちの資産との
相性については裏面へ

広がる運用の
選択肢！

CBをうまく使うコツ

コツ
1

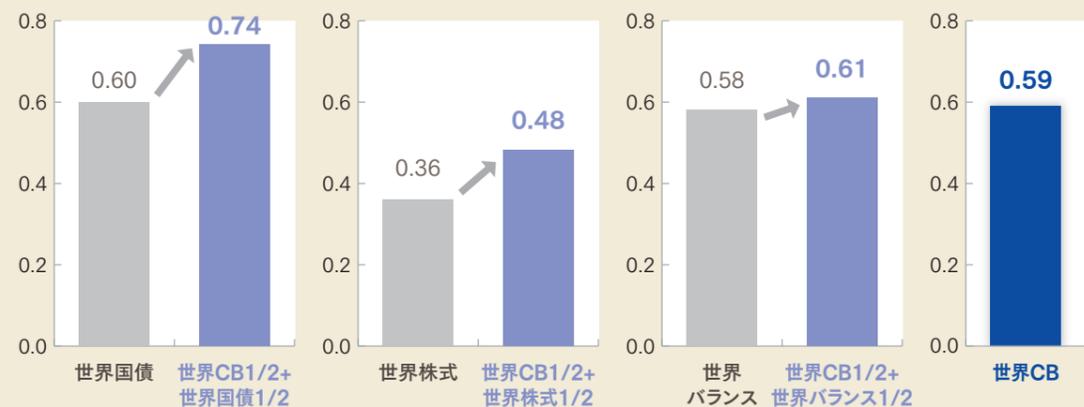
他の資産との組合せ効果により運用効率が改善

- CBを債券や株式などと組み合わせて保有すると、分散効果によりリスクを抑えながらリターンを引き上げることが可能となり、運用効率(リスク当りのリターン)の改善が期待できます。

世界CBと他資産を組み合わせた場合のリスク・リターン(米ドルベース、年率)



運用効率[リターン÷リスク]



出所)FactSet等のデータをもとにニッセイアセットマネジメント作成
データ期間: 1999年4月末~2019年4月末(月次) リスク(年率)は月次リターンの標準偏差を年率換算したものです。
世界CB: トムソン・ロイター・グローバルCBインデックス、世界国債: FTSE世界国債インデックス、世界株式: MSCIワールド・インデックス(配当込み)、世界バランス: 世界国債と世界株式を1:1の割合で合成

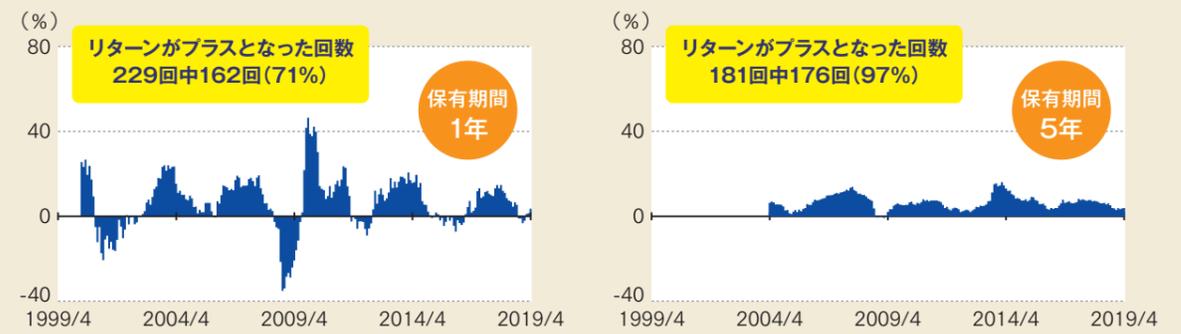
当資料のいかなる内容も将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。

コツ
2

長期保有でさらに安定的なリターンを

- 世界CB指数のデータを見ると、保有期間が長い方がリターンが安定している傾向がみられます。

世界CBの保有期間別リターン(米ドルベース、年率)



出所)FactSetのデータをもとにニッセイアセットマネジメント作成
データ期間: 1999年4月末~2019年4月末(月次) 世界CB: トムソン・ロイター・グローバルCBインデックス
各月末時点において保有期間が1年の場合と5年の場合の年率リターンを表しています。

【投資信託のリスク】●投資信託は、値動きのある有価証券等(外貨建資産の場合には為替変動リスクもあります)に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、投資元本を割込むことがあります。●**投資信託は、預貯金とは異なり、投資元本および利回りの保証はありません。運用成果(損益)はすべて投資者の皆様のものとなりますので、リスクを十分にご認識ください。**●基準価額の変動要因は個別の商品毎に異なります。ご購入に際しては、投資信託説明書(交付目論見書)の内容を十分にお読みください。

【投資信託の費用】<購入時に投資者が直接的に負担する費用>●購入時手数料 <換金時に投資者が直接的に負担する費用>●信託財産留保額●換金手数料 <保有期間中に投資者が信託財産で間接的に負担する費用>●運用管理費用(信託報酬)●監査費用●その他の費用・手数料(組入る有価証券の売買委託手数料、信託事務の諸費用、借入金の利息等) ※当該費用とその合計額、上限額および計算方法は個別の商品毎に異なりますので、当資料では記載しておりません。※詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

【ご留意いただきたい事項】投資信託はリスクを含む商品であり、運用実績は市場環境等により変動し、運用成果(損益)はすべて投資者の皆様のものとなります。投資元本および利回りが保証された商品ではありません。当資料はニッセイアセットマネジメントが作成したものです。投資信託のご購入に際しては、販売会社よりお渡しする投資信託説明書(交付目論見書)、契約締結前交付書面等(目論見書補完書面を含む)の内容を十分にお読みになり、ご自身でご判断ください。投資信託は保険契約や金融機関の預金ではなく、保険契約者保護機構、預金保険の対象とはなりません。証券会社以外の金融機関で購入された投資信託は、投資者保護基金の支払対象にはなりません。当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的財産その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。MSCI各種指数は、MSCI Inc.が公表している指数です。同指数に関する著作権、知的財産権、その他一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。また、MSCI Inc.は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。FTSE世界国債インデックスは、FTSE Fixed Income LLCにより運営されている債券インデックスです。同指数はFTSE Fixed Income LLCの知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLCが有しています。



商号等: ニッセイアセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第369号
加入協会: 一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会